

日本山岳史と一橋山岳部史について

佐藤 周一

1. 日本山岳史(別添資料参照)

- ① 近代以前 ～信仰登山(修験道、講登山など)、日本三大霊山～
- ② 近代登山の幕開け ～廃仏毀釈、英国人による啓蒙、知識人へ普及～
ラザフォード・オールコック、ウイリアム・ガウランド、ウォルター・ウエストンら
- ③ 近代登山の展開 (大正期から始まる大衆登山)
アルピニズム(「黄金」→「銀」→「鉄」の時代への変遷)
榎有恒がもたらしたパイオニアワーク→担い手は旧制高校・大学とOBら
大正デモクラシーが背景となった第一次登山ブーム
戦後復興とヒマラヤ志向、登山の「高度成長」
より自由な登山スタイルへ、多様な発想と価値観

2. 一橋山岳部の百年史(別添年表及び「小谷部全助と甘利仁朗」参照)

1) 東京商科大学時代

夏季登山を中心にしていたが次第に積雪期登山の比重が高くなる
不世出の登山家・小谷部全助の登場→登攀的要素の強い登山活動へ
(北岳バットレス、前穂東壁、穂高滝谷、鹿島槍周辺)
「読む、書く、そして登る」→吉沢一郎、望月達夫ら

2) 一橋大学時代

戦後黄金期(昭和30年代半ば～40年代初め)
戦後山岳史に残る先輩たち(甘利仁朗、山本健一郎、中島寛、倉知敬ら)
遭難による低迷期入り(鹿島槍→甲斐駒→ホワイトセイル)
活動の分散化、石学長OBの苦悩と体育会退会そして復帰
廃部の危機を乗り越え部員数増加・再生へ

3. 今後の活動方針

- 1) 「一橋山岳部は死んだ」説→では新生した部は何を目指すのか?
- 2) JAC学生部など対外連携の必要性

以上